平成３１年１月４日朝礼
施設長　桑原英眞

我が国の社会保障制度について

明けましておめでとうございます。年頭に当たりまして本日は我が国の社会保障制度についてお話致します。

昨年 12 月の管理職等の研修会が伊香保で開催されて参加された職員の方もいらっしゃると思いますが、「社会の持続性と社会保障」という講演内容は日本社会の基本ですので職員の皆さんにも知っておいて頂きたいと思い簡単にお話致します。

マクロの大きな流れを知ったうえでミクロの身近の方針も判断するように心掛けないと自分のボタンの掛け違いにも気付けません。国政選挙の投票権も「木を見て森を見ず」では正しい判断が出来ません。

図表４－１　日本の将来人口

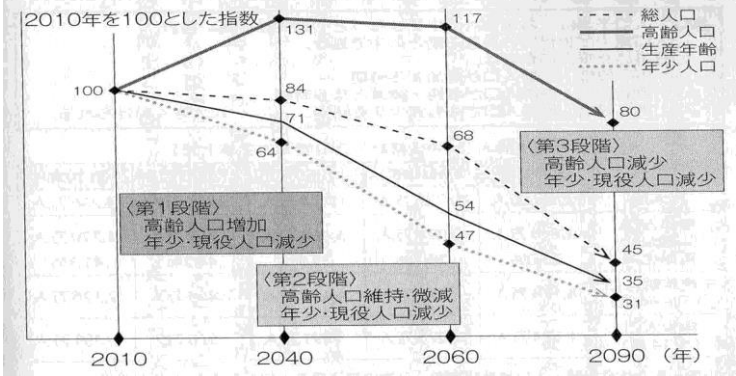
実は、人口予測は、各種推計の中ではもっとも蓋然性の高い推計。
○人口減少は世代別の異なる動きの中で進む。
○日本の将来人口動向は、
第１段階：高齢人口が増加する時期、
第２段階：高齢人口が維持・微減となる時期、
第３段階：高齢人口さえも減少する時期、　　に大きく分けられる。

将来推計人口【中位推計－合計特殊出生率 1.35】

	2010年	2040年	2060年	2090年	2110年
総人口	12,806万人	10,728万人	8,674万人	5,727万人	4,286万人
老年人口（65歳以上） 高齢化率	2,948万人 23.0%	3,878万人 36.1%	3,464万人 39.9%	2,357万人 41.2%	1,770万人 41.3%
生産年齢人口（15～64歳）	8,174万人	5,787万人	4,418万人	2,854万人	2,126万人
年少人口（～14歳）	1,684万人	1,073万人	791万人	516万人	391万人

（出所）国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成 24 年１月推計）」.

図表４－２　2010 年を 100 とした場合の人口推移



「教養としての社会保障」香取照幸著(2017)より

上記の表はその講演の一部です。今後 20 年高齢者の実数は増え続きます。40 年後も殆ど減りません。一方生産年齢人口 15～64 才世代は減り続けます。従来の考え方では支えられる人／支える人のバランスは年齢の視点しかありませんでした。落ち着きを見せるのは 100 年後です。このままいけば社会保障は持たないと。

しかし日本人は今や暦年齢よりも肉体年齢は 30 年前より 15 才若返っていること、**医療介護保育サービスは雇用を生み出し経済を回し、年金さえも景気を下支えする時代に入っていること**、元気な高齢者が働けるような環境・育児しながら働けるような環境を創れば支えられる人／支える人のバランスも改善すること、高齢者が老後の不安なく生活できる制度にして貯金年金を十分使える環境にすれば景気回復にも役立つこと、外国人との多文化共生を真剣に考える時代に入ったこと、産業構造が複雑化して働かざる者食うべからずの概念自体が時代遅れだということ、このような点を理解できれば日本の社会保障制度は将来も希望に満ちたものになる、と言うことです。但し今はその転換点に立っていて世界中が最先端を走る日本のやり方を固唾をのんで密かに見守っているということです。

政治の世界では様々な学者が様々なことを言い右往左往して借金を子や孫の世代に先送りしていますが、「病気や年をとっても安心して暮らせる社会」という社会保障のあるべきイメージの根本を国民一人一人が忘れずに共有し協力して行けば、それが出来る、という意義あるお話でした。

年齢構成だけでなく過去 30 年間が急速なハイテク技術の進歩があったことに加えて今後 30 年間は更に大きな技術進化が予想され AI が人間の脳を超えるシンギュラリティが 2050 年までに起こることや既に iPS 細胞から脳の培養の基礎が既に成功していることなど不確定要素が加わり、仕事とは何か、幸せとは何か、という問題も具体的に迫ってくる時代に入るでしょうが、これらを踏まえたうえで今後 50 年 60 年先まで続くあるべき介護の姿と言う命題に、私たちは前を向いて自信を持って目の前の仕事に誠実に向き合い解決して行くことが求められています。

老人保健施設一羊館の理念
利用者の方々すべてに尊厳・安心・満足を！

一羊館の行動指針
私たちは、保健・医療・福祉の架け橋のプロに徹します。
私たちは、利用者の QOL・職員の QOL・健全経営の３立を目指します。